

中村哲医師アーカイブ \*『花は咲くこれからも』（福岡高校十七回卒業五〇周年記念文集・二〇一四年九月刊）より

## 仰げば尊し… 福岡高校の思い出

中村哲

福高時代はいろんな思い出がいっぱい詰まっています。

年齢にすれば十五歳から十九歳、研修学園（付属予備校）一年を入れて、四年間お世話になりました。最も多感な年です。

歳をとったせいか、悪い思い出はほとんど

ありません。平山先生や長田先生が担任で、どの先生も個性的で温かい方々でした。世の中全体も今よりのんびりして、自由だった気がしています。平山先生は在学中に亡くなれましたが、国語の先生らしく、よく生徒の気持ちを汲む方でした。

当時私は山歩きに熱中しており、特に九州縦断が夢でした。しばしば学校を休んでは三郡縦走(福岡市近郊の登山コース)に出かけ、体を鍛えていました。修学旅行の時間が絶好の機会でした。

計画は、修学旅行の積立金を使って旅費を捻出し、一週間で霧島から阿蘇まで縦断するものでした。そのため、病気を理由に修学旅行に不参加を伝えました。

さて、困ったのは旅費不足でした。

国鉄(今のJR)では「九州一周券」というのがあり、旅程にはうってつけでしたが、どうしても学割をとらないと足りません。そこで迷った挙句、覚悟を決めて担任の平山先生に許可を貰いに行ったのです。当然、先生は怪訝な顔をして、「君は病氣ということだったが、旅行の理由は何だ」と尋ねました。しかし、ここは長年の夢が叶うかどうかの瀬戸際です。勧進帳の気合です。私を弁

慶、先生を富樫と見立て、

「病気の保養に旅立ちます」

と、頭を垂れ、先生の目をじっと見ました。時間が長く感ぜられました。先生は数秒間、私の顔と学割申請書を見比べ、ニヤリと笑みを浮かべて曰く、

「ぜひ健康を回復して帰ってきて下さい」

そう言って署名してくれました。

以心伝心、晴れて九州縦断の夢が成りました。今では、山歩きの旅よりも、このやりとりの方が記憶に鮮やかです。後にも先にも、こんなことはありません。

人の温もりと古い校舎が重なり、ほのぼのと思い返されます。この師あって自分あり。学んだことは教科だけではありません。人の情けと温かさ、そう思っています。

校舎玄関の石碑、「至誠勸業、剛健成風、操守堅固」の十二文字は、しっかりと心中にあります。

### \*表紙写真によせて\*

## 木陰で休む遊牧民と羊たち

アフガニスタンでは遊牧民が羊に草を食べさせるため、群れを誘導しながら歩いている光景をよく目にする。普段は我先とばかりに車を飛ばす運転手も、羊が道路を横断するときは気長に見守る。羊たちが、木陰で身を寄せ合い気持ちよさそうに休んでいる姿を眺めていると、心が穏やかになり日常の喧騒を忘れさせてくれる。

遊牧民は一定の居住地に留まらず家族、家畜と共に、自然の移り変わりに従って、季節ごとに新しい場所へと移動する。その生活様式から遊牧民に対して「自由」という言葉を連想する人は少なくない。政権がどんなに移り変わっても、彼らの生活は脈々と引き継がれ、いつもと変わらない日々を送る。「政治」「世論」「善悪」といった実を持たない上辺だけの概念に縛られない。動物、自然と共に生活し、日々の営みに潜む恵みを楽しむ。命の偉大さと儂さ、木陰で木に寄りかかって雲の行方を見守りながらまどろみに身を委ねる心地よさ、夜空に広がる無限の星々の美しさを。

## PMSの動き

- 8月12日～28日 カシコート護岸堤、補修工事
- 9月 バラコット用水路の工期を2024年3月まで延長
- 9月23日～11月5日 PMS支援室がジャララバード事務所に滞在
- 10月3日 マルワリード取水口の改修開始
- 10月7日 タンギトクチー用水路の補修開始
- 10月8日 サツマイモ収穫開始
- 10月24日～31日 地震の被災支援の為、PMSスタッフとPMS支援室員が西部ヘラート州へ赴く。

### ▼寄付をしてくださる皆さまへ

\*当会は法人格を持たない「任意団体」です。お送り下さったご寄付については税金控除の対象となりません。予めご了承頂きますようお願い致します。

### ▼現地活動を紹介するパンフレットをお送りします

\*ペシャワール会の活動をご紹介されるときにお使いいただけるものです(払込用紙がついてきます)。ご希望の方は事務局にご連絡下さい。パンフレットはA3変形を四折りしたもので、長形の定形封筒に入るカラー版です。なお、パンフレット、会報等は受け取る意思のある方への配布を原則としております。ポスティング等は御遠慮下さい。